

第4回那覇空港調査PI評価委員会  
議事概要

1 日時 平成18年12月4日(月) 13:00~15:00

2 場所 沖縄ハーバービューホテル2階 金鶏の間

3 出席者

(1) 委員(五十音順)

琉球大学名誉教授	上間 清
フリージャーナリスト	崎山 律子
琉球大学工学部教授	堤 純一郎
淑徳大学国際コミュニケーション学部教授	廻 洋子

(2) 那覇空港調査連絡調整会議からの参加

内閣府沖縄総合事務局開発建設部港湾空港指導官	成瀬 英治
国土交通省大阪航空局飛行場部次長	梅野 修一
沖縄県企画部参事	長田 信
内閣府沖縄総合事務局那覇港湾・空港整備事務所長	三宅 光一

(3) 内閣府沖縄振興局からの参加

内閣府沖縄振興局参事官(振興第三担当)付専門官	篠 良一
-------------------------	------

(4) 国土交通省航空局からの参加

国土交通省航空局飛行場部計画課空港計画企画官	大津 光孝
------------------------	-------

5 主な発言内容(順不同)

(1) PIステップ2実施報告について

(委員) 意見数の増加は喜ばしいが、報告書の内容とあまり関係のない意見も増加している。PIの意図する所から若干違う方向に向かっているように感じる。

(委員) PIの目的や対象を考慮したうえで、今回の周知手段(メディアやコンテンツ等)を分析し、ステップ3に活かしていく必要がある。

(事務局) 事務局で十分検討し、次回委員会で報告したい。

(委員) テレビCMはPIを理解させるためのものではなく、周知させるためのもの。CMの効果を高めるには、一定期間に集中して放映するなど工夫が必要。

(事務局) アンケート回答者の4.5%の方が、PIを知ったメディアとしてテレビCMを挙げている。この数字をどのように捉え、またPIステップ3での放送を継続するかどうか、放送形態も含めて検討していきたい。

- (委員) 飛行機内に報告書を置けば、飛行機を利用する方は直接目にするので効果が高い。関心の薄い方には、広報誌や公民館の活用など、地道な活動が必要。
- (委員) 機内に報告書を置くアイデアはとてもいいが、飛行機自体が沖縄と関係のない地域も飛ぶようになってきているので難しい。確実な方法として、那覇空港と結ぶ県内の空港に設置するという方法がある。

(委員) 行政番組や説明会を繰り返し続け、ホームページを常に更新するなど、長く積み重ねていくことが、理解をしてもらう上で一番効果が出てくる。広告よりも情報提供に力を入れるべきではないか。

(委員) 情報を得る方法として、最近ではインターネットが主流。HPのアクセス数が昨年の半分程度になってしまった原因を分析し、航空会社のHPにバナーを貼ってもらう等、アクセス数を増やす方法を検討すべき。

(事務局) アクセス数半減の原因について、PIステップ1からのリピーターや関係者の再訪問率の減少等が考えられるが、断定はできず引き続き分析していく。バナーについては、航空会社でどの程度対応してもらえるか分からないが、次回ステップで検討していきたい。

(委員) 概要版がもう少し概要でもよかった。幅広く意見を聞くのであれば、一般の方が読みやすいよう工夫をすべき。

(委員) 事務局としてはアンケートにある10項目の質問の中身を理解して欲しいのだから、やむを得ない感はある。

(委員) 情報提供の質を落として正しい情報が伝わらないというのでは問題。幅広く意見を聞くことと相反するが、できるだけ簡略化しつつ情報の質を落とさないよう努力してほしい。

(委員) 「内容を充実すべき」という意見は、「分かりにくい」という意見の1つとして真摯に受け止め、反省すべき。

(事務局) しっかりと受け止めて、寄せられた意見をさらに吟味していきたい。

(委員) 寄せられた意見に対する対応で、意見件数の多いものについては、もう少し回答を丁寧に書いてはどうか。

(事務局) 回答の不足している部分については、今回の意見を踏まえて対応していきたい。また、現時点で回答できない箇所については、ステップ3で対応していきたい。

(委員) 自己評価は自画自賛で終わらず、多少の反省点を含めるべき。

(委員) 本日の意見、指摘については、今後の課題として実施報告書に追記してほしい。

(事務局) 概要という形になるが、ご意見を整理し、とりまとめる。